

⑰高梨 克久(外野手、3年)
 =東京・井萩中出=



八学光星

甲子園
 たより

甲子園に入るのは初めてでした。初戦の試合前は緊張しましたが、憧れの場所だったので、同時にうれしさもこみ上げてきました。チームメイトも徐々に緊張

初戦前は緊張とうれしさ

が解けてきて、今は良い雰囲気練習できています。個人としては、愛工大名電の左投手の変化球をイメージして打撃練習に取り組んでいて、調子は良いです。打席が回ってきて、1試合で1打席ぐらいしかないと思いますが、数少ない打席で今までやってきたことを全て出せるように頑張ります。



フリー打撃で調整する八学光星ナイン
 10日、大阪府豊中市

近距離打撃で快音連発
 光星ナイン、それぞれ調整

第104回全国高校野球選手権大会第7日第2試合(12日午前10時半開始予定)で、愛工大名電(愛知)とデンティシオンに合せて調整した。
 八学光星は10日、大阪府豊中市内の球場でノックやフリー打撃など約2時間の練習を行った。
 フリー打撃では、初戦でいずれも2安打2打点と好調だった中澤恒貴や主砲の野呂洋翔らが、相手投手陣を想定した近距離打撃で鋭い打球を連発した。投手陣は洗平歩人主将や富井翼らがブルペンで約30球を投げ

八学光星・仲井宗基監督

中軸機能してくれば

チーム力拮抗、終盤が鍵

愛工大名電・倉野光生監督



仲井 伝統もあり、倉野監督の下で鍛え上げられた素晴らしいチームだ。昨年の甲子園の経験者も数多くいて、レベルが高い。
 倉野 青森大会では複数の投手を擁して勝ち上がり、伝統の強打もある。甲子園初戦も好投

全国高校野球選手権大会第7日(12日)の2回戦で対戦する八学光星の仲井宗基監督と、愛工大名電(愛知)の倉野光生監督に警戒する相手選手や勝負のポイントなどを聞いた。
 (聞き手・福田駿)

手打ち崩すしぶとい試合をしてきた。
 現在のチーム状態は、仲井 選手たちは10日の練習あたりから、やっと地に足が着いてきた。有馬(伽久)君、山田(空睡)君と素晴らしい先発投手がいるのでどうなるか分からないが、うちの状態は上向いている。
 倉野 普段と違う環境に適応するのが難しい。練習量が思うようにいかない分、本番が心配だが、それはどのチームも同じ。出たところ勝負でやるしかないかなと思ってる。
 警戒する選手は、仲井 有馬君が投打で活躍している印象だ。打者に気になっているのは7番の美濃(十飛)君。出塁されるとちにとっては嫌な流れになるので、美濃君のしぶとさを出させないように鍵になるだろう。

倉野 中軸は長打力があるが、全ての選手が鋭いスイングをしてくる。タイプの異なる複数の投手がいるので、うちの打者が継投についていけるか心配。投打全ての面で警戒している。
 自チームのキーマンは、仲井 中軸がしっかりと機能してくればいい。ただ、日替わりでラッキーボーイのような選手も出てきてくれれば、何とか勝っているのではないかなと思ってる。
 倉野 打撃力、投手力などチームとしての力はほぼ互角だ。最終的には守りの差が勝負を分ける。捕手の配球や守りが重要で、9番の藤山航平をキーマンに挙げたい。
 どう戦うか、仲井 名電の選手に最大限の力を発揮されると厳しい。機動力の部分もしっかりマークする。一、二回に点を取られたとしても、最終的に相手よりも一点でも多く取りたい。
 倉野 気持ちの面で勝つことなく、積極的に試合に向かえるように準備させる。立ち上がりの先取点は重要だが、チーム力が拮抗しているので、終盤が鍵になるだろう。